

生産性向上のための「情報共有」とは？

～まずは「スケジュール管理」と「施設予約」を軸に～

彼らが最初に必要だと感じたのは社内のスケジュール管理だった。グループウェアの導入が最も急がれるのは制作部門だ。従来のようなチーム単位での独立した作業だけでなく、複数のチームが合同で行う複合プロジェクトが多くなっているためである。業務の多様化はこのサンプルケースだけでなく、実際の企業でも進んでいるのではないだろうか。

これまで少人数のチームで机を並べて業務を行っていた時は、それぞれ口頭とメモでお互いの意思の疎通ができたかもしれないが、合同プロジェクトの場合はそうもいなくなる。ちょっとした会議を行いたい場合でも、参加すべきメンバー全員のスケジュール調整、開催日時の通知、会議室の確保といった面倒な作業が多く発生する。

プロジェクトに関わる人員それぞれのスケジュールが一目で分かると同時に、会議室や必要な機材といった社内施設の予約システムなども欲しいところだ。

場合によっては、グループウェアの機能をインターネット上のサービスとして提供しているASP (Application Service Provider) ベースのグループウェア導入も有効かと考えたが、社内での重要情報のやり取りもあるため、少しでもリスクは減らしたい。ASPベースのサービスは、導入・運用コストが大幅に削減されるほか、ユーザー側にインターネット環境さえあれば、社内外のどこからでも利用できるため、利用目的によっては非常に便利である。ただし、今回のケースでは、情報管理についてのリスクを少しでも少なくしたいという観点から、システムについての管理をすべて外部に委託する形となるASPサービスの利用は見合わせることにしたい。

ユーザーインターフェイスを考慮する

グループウェアを導入した場合、最大の難関となる

のが「すべての社員に使ってもらうこと」だ。社内全体を見回せば、スケジュールといえば手帳、情報の伝達は電話と割り切って、メールさえあまり活用していない人も存在する。いくらグループウェアを導入したところで、こうした人々にも利用してもらえなければ、情報共有による業務効率の向上という目的は果たせないことが多い。

そんな事態を避けるためのひとつの要素として「ユーザーインターフェイスが単純明快である」ということが重要になってくる。マニュアルやヘルプに頼らず直感的に操作できるか、必要な情報にたどり着くまでの手順が複雑にならないかなど、チェックすべき点は多い。

近ごろでは、大抵のグループウェアが一般的なWebブラウザからすべての機能を利用できるようになっている。ユーザーインターフェイスもWebサーフィンをする時と同様のポイント＆クリックが中心となっているため、基本的な操作をユーザーが理解できないという状況は起こりにいえるだろう。また、ほとんどのPCに搭載されている一般的なWebブラウザから利用できるということは、クライアントの導入や管理の手間が大幅に削減されるという点で管理者にとってはありがたい。

製品のピックアップにおいて、最後に考えておきたいのは将来的な拡張性に関する部分だ。導入当初はグループスケジューリングと施設予約が中心になるだろうが、次の段階として「ワークフロー」「電子決裁」「モバイル環境への対応」といった形で、業務での活用範囲を広げていければベストである。そのための基盤となるキャパシティがあるかどうか視野に入れておきたい。

以上の点を考慮して、ある程度製品を絞り込むことにしよう。その結果、ユーザーインターフェイスの簡便さが目をひいたサイボウズの「サイボウズ Office 6」、多機能で使い勝手も良さそうな印象を受ける

参考●ASPベースで利用できるグループウェアの例

サービス名	企業名	URL
ASPARAGUS	東海ビジネスサービス	http://www.aspa.ne.jp/
@nifty法人向けサービス(グループウェア)	ニフティ	http://www.nifty.com/biz/groupware/
イントラネット	イントラネット	http://www.intranets.co.jp/
サイボウズ Office 6 for ASP	各パートナー企業	http://office.cybozu.co.jp/cb6/seihin/asp/
+desknet's	プライムパートナーズ	http://www.plus-desknets.com/



表1 ● 今回の検討候補となる各製品の動作環境

メーカー名	サイボウズ	ネオジャパン	日立製作所
製品名	サイボウズ Office 6	desknet's V4.5	Groupmax Version 7
Webサーバ	Microsoft Internet Information Services 4.0/5.x/6.0 Microsoft Peer Web Services サイボウズ Webサーバー 3.1 サイボウズ AG Webサーバー Apache 1.3.x (Win32用) (2.0.x非動作) Apache 1.3.x/ Apache 2.0.x	Microsoft Internet Information Server 2/3/4 Microsoft Internet Information Services 5 Microsoft Internet Information Services 6 Microsoft Personal Web Server 4.0 Apache Oracle Web Application Server Oracle Application Server Netscape Enterprise Server iPlanet Apache Oracle Web Application Server Oracle Application Server Sun Web Server IBM Lotus Notes/Domino	Microsoft Internet Information Services 6.0 Microsoft Internet Information Services 5.0 Sun One Web Server Enterprise Edition 6.0 Microsoft Internet Information Server 4.0 Netscape ENTERPRISE SERVER 3.5 1 Netscape ENTERPRISE SERVER 3.6 Netscape ENTERPRISE SERVER 3.63 (WinNT4.0SP4) Sun One Web Server Enterprise Edition 4.0 (WinNT4.0SP4) Sun One Web Server Enterprise Edition 4.1 (SOWSEE6.0SP1以降) Sun One Web Server Enterprise Edition 6.0 (SOWSEE4.1 SP8以降) Netscape ENTERPRISE SERVER 3.6 Netscape ENTERPRISE SERVER 3.63 Sun One Web Server Enterprise Edition 4.0 Sun One Web Server Enterprise Edition 4.1 (SOWSEE SP5以降) Sun One Web Server Enterprise Edition 6.0 (SOWSEE6.0SP1以降)
サーバOS	Windows Server 2003 64bit Edition Windows Server 2003 Professional Windows 2000 Professional Windows 2000 Server Windows NT Workstation 4.0 Windows NT Server 4.0 Linux glibc 2.1/2.2/2.3 FreeBSD 4.x [glibc 2.x(2.1以上)] Solaris 7/8/9	Windows Server 2003 Windows XP Windows 2000 Server/Professional Windows NT 4.0 Server/Workstation [2006年3月末日終了] Windows Me [2006年6月末日終了] Windows 98 [2006年6月末日終了] Solaris2.5.1 [2006年3月末日終了] Solaris 2.6/7/8/9/10 AIX 4.3.3 [2006年3月末日終了] Turbo Linux 10 Server Turbo Linux Server 7.0/8.0 Turbo Linux Enterprise Server 8.0 RedHat Linux 7.0/7.1/7.2/7.3/8.0/9.0 RedHat Enterprise Linux AS/ES 2.1/3.0/4.0 Fedora Core 3 Cobalt Qube3 Cobalt RaQ3 [2006年3月末日終了] Cobalt RaQ4/RaQ550 Sun LX50 (Sun Linux 5.0) MMQUBE3 MMQUBE2 FreeBSD 3.0/3.1/3.2/4.1	Windows Server 2003 Standard Edition Windows Server 2003 Enterprise Edition Windows 2000 Server Windows 2000 Advanced Server Windows NT Server 4.0 (サービスパック6a以降) HP-UX 11.00 (32bit) HP-UX 11i (32bit) AIX 5L V5.1 AIX 5L V5.2
Webクライアント	Internet Explorer 5.x以上 Netscape 4.7x/6.2x/7.0x/7.1	Internet Explorer 4.0以上、 Netscape Navigator 4.0以上、 そのほかのブラウザ	Netscape Communicator 4.06 Netscape Communicator 4.41 Netscape Communicator 4.5 Netscape Communicator 4.6 Netscape Communicator 4.7 Netscape Communicator 4.75 Netscape Communicator 4.78 Internet Explorer 4.01 SP1 Internet Explorer 4.01 SP2 Internet Explorer 5 Internet Explorer 5.01 Internet Explorer 5.5 Internet Explorer 6
今回の評価	○	◎	○
評価の理由	動作環境については、各製品のカタログベースの記述となっている。今回のテーマは「Web対応グループウェア」なので、ブラウザの種類は問わないのが理想的だが、各社の記述には若干の差があった。もっとも、企業の一般的なシステム環境で利用するにあたっては、いずれの製品も問題や不具合はないと思われる。今回は、WebサーバおよびサーバOSの選択肢が広く、記述に詳しい「desknet's」を若干高く評価した。		

表2●各製品の試用版入手方法

メーカー名	サイボウズ	ネオジャパン	日立製作所
製品名	サイボウズ Office 6	desknet's V4.5	Groupmax Version 7
入手先URL	http://office.cybozu.co.jp/cb6/download/index.html	http://www.desknet.com/standard/download/index.html	※現在、試用版の配布は行っていない

ネオジャパンの「desknet's V4.5」、豊富なソリューションで拡張性の高さが期待できる日立製作所の「Groupmax Version 7」の3製品を候補とした（表1）。

試用版をインストールする

これらのグループウェアは、ほとんどの場合、稼働しているWebサーバへインストールするだけで使い始めることができる。とはいえ、特に「使い勝手」の部分については、情報システム部のスタッフと、実際に業務で利用する現場のスタッフとの感覚の違いがあるため、実際に運用を開始する前に、ある程度のヒアリングをしておきたい。

そこで考えられるのは、各製品の試用版を使い、一部のユーザーの協力を仰いで、一定期間テスト運用するという方法だ。

サイボウズ Office 6、desknet's V4.5 はWebからダウンロードすることが可能だ（表2）。

一部のユーザーにも試用版を使ってもらい、現場の意見を参考に会社のカラーに合ったグループウェアを導入することにより、より失敗のリスクを減らせるだろう。

標準状態での トップページの印象は？

画面1から画面3は、各製品のトップページである。どの製品もユーザーインターフェイスのカスタマイズは可能だが、ここでは使い始めに当たってあまり手間



画面1 「サイボウズ Office 6」のトップページ

を掛けたくないという前提で、標準状態での印象を見ていきたいと思う。

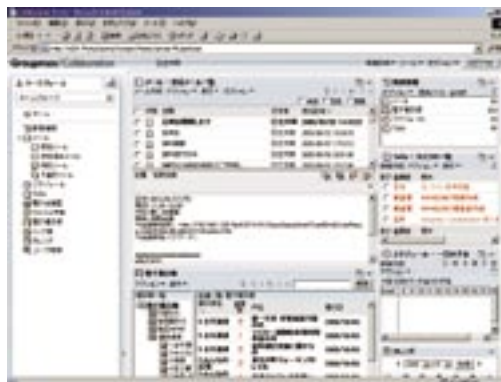
サイボウズ Office（画面1）は上部にメニュー、下部が小窓で、それぞれにタイトルリンクがありクリックして各機能を起動する。desknet's（画面2）はメニューが左、残りのスペースに各機能の小窓を配置して、使うときに「GO」ボタンより呼び出す仕組みだ。Groupmax（画面3）はdesknet'sと同様の仕様となっている。

どのツールも操作に慣れることによって作業効率は上がりそうだが、より「Webライク」なサイボウズ Office、「機能性重視」のGroupmax、両製品の中間的なイメージのあるdesknet's、という印象がある。先に述べたような「すべての人にすぐに使い始めてもらう」という条件を加味して考えると、Webライクな「サイボウズ Office」が有利かもしれない。

もっとも、これらのインターフェイスは自在にカス



画面2 「desknet's V4.5」のトップページ



画面3 「Groupmax Version 7」のトップページ

タマイズすることが可能だ。利用率が上がってくれば、リテラシーの高いユーザーは各自の好みに合うように変更を加えるだろうが、多くの社員は標準状態で使

い始めることが予想されるので、親しみやすく、使いやすいと思うさせる初期デザインは重要なポイントだ。

表3●必要とされる機能

メーカー名	サイボウズ	ネオジャパン	日立製作所
製品名	サイボウズ Office 6	desknet's V4.5	Groupmax Version 7
スケジュール	○	○	◎
施設予約	○	◎	○
トップページの親しみやすさ	◎	○	○
評価の理由	どの製品にも、必要とされる機能はすべて備わっている。今回はカタログ、Webサイトなどで公開されている情報から評価したが、実際には、テストユーザーによる試験運用などを行って、その結果なども評価に加味するべきだ。見た目の親しみやすさについては、若い社員の多い広告代理店というシチュエーションを考慮して、Webサイト風なサイボウズ Office 6が最も評価されるのではないかと考えた。		

Check Point

②

それぞれの製品の特徴をつかむ ～プラスアルファの機能に特色あり～

ここでは、各製品の機能をひとつお見みしてことにしよう。

まず「サイボウズ Office 6」のスケジュール機能は、グループ、個人、それぞれのスケジュールはもちろん、メンバーの在席状況や電話メモ、ToDo リストなども確認しやすい位置に配置されている。これらの情報の見やすさは抜群だ。スケジュール機能と同等のインターフェイスが装備されている施設予約機能も、容易

に操作できる。

「desknet's V4.5」のスケジュール機能についても、個人はもちろん、グループのスケジュールを日、週単位で表示可能となっている。そのほか、承認依頼やToDo との連携なども可能で、「直行直帰アイコン」といった、現場のユーザーに分かりやすい機能も装備している。施設予約に関しては「設備予約」機能として実装しており、予約、変更、削除、空き状況確認といったひとつおりの機能がそろっている。

「Groupmax Version 7」も個人、グループのそれぞれについてスケジュール管理ができる。特に「空き時間検索」機能は非常に便利だろう。また、グループの登録、変更、削除が柔軟に対応できるインター



画面4、画面5 サイボウズ Office 6 (左)、desknet's V4.5 (上)は、いずれもグループごとのスケジュール管理が行いやすい



画面6 Groupmax Version 7は、個人へのアクセスが容易

フェイスは使い勝手が良さそうだ。施設予約については使用状況の参照やスケジュールの予約が可能で、重複予約禁止、自動承認など、機能も充実している。

今回のケースでは部署が違う社員がチームを組んだ場合の使い勝手がどのようなものが気になるころだ。グループの切り替えが瞬時に行えるのはサイボ

ウズ Office 6、desknet's V4.5で、タブによって登録しているグループのスケジュールが変更できる。これはプロジェクト単位、部署単位など複数のグループを持つユーザーにはうれしい機能だ(画面4、画面5)。グループごとに表示させた「人」へ素早くアクセスできるのは Groupmax で、個人の裁量が大きく関わってくるようなプロジェクトでは便利ははずだ(画面6)。

オプションとそのほかの機能

最低限必要となる機能は、いずれの製品も高いレベルで備えていることが分かった。当初考えていたスケジュール管理、施設予約に関しては、ユーザーインターフェイスのデザインや使い勝手が製品チョイスの決め手になってきそう。

今回の導入検討に当たっては、基本的な部分のみに注目しているが、いずれの製品にも豊富な機能が用意されている。実際に使い込んでゆくうちに「この機能は絶対に必要」「この機能は使いづらい」などという意見も出てくるだろう。そのほかの機能についても、事前にある程度は吟味しておこう。

また、将来の拡張性についても考えておきたい。候補の3製品を見た場合、最も豊富なソリューションを持つのは Groupmax だ。ワークフローの追加や

表4●そのほかの機能

メーカー名	サイボウズ	ネオジャパン	日立製作所
製品名	サイボウズ Office 6	desknet's V4.5	Groupmax Version 7
標準の機能	掲示板 社内メール メール アドレス帳 ファイル管理 個人フォルダ サイボウズNET システム管理ツール	ToDo Webメール 伝言・所在 タイムカード ワークフロー 回覧板 インフォメーション アドレス帳 電子会議室 文書管理 購買予約 プロジェクト管理 仮払清算 備品管理 レポート提出 アンケート アラーム メモパッド キャビネット ユーザー名簿 サブウィンドウ ログイン 個人設定 システム管理	メール 掲示板 文書管理 など
追加オプション	マネジメントオプション モバイルオプション クライアント用フリーウェア	—	ワークフロー エンタープライズワークフローサーバ デジタルダッシュボード
今回の評価	○	◎	○
評価の理由	各種のオプションや大規模展開できる豊富なソリューションはそれぞれ魅力的だが、今回のサンプルケースのように、200名規模で1社の企業、しかも初めてのグループウェア導入にも関わらず、将来的にさまざまな業務への適用を視野に入れたいということであれば、すべての機能が標準でされているdesknet'sを選択しておいたほうが、のちのちの展開が容易になると思われる。		

各種商品がセットになったスイートセット、組織の枠組みを超えたクロスファンクショナルチームの業務遂行支援商品「Groupmax Collaboration」など、実に多彩なラインアップとなっている。

サイボウズ Office 6 については、ワークフロー機能を追加するマネジメントオプション、外出先からのデータ同期、携帯電話でのブラウジングや PDA からのデータ参照機能などを追加できるモバイルオプションなど、将来的に欲しくなりそうな機能はそろっている印象だ。

desknet's には、基本的に機能追加のためのオプションは存在しない。ワークフローをはじめとする、他メーカーがオプションとして提供している機能が標準装備されている点は評価したいところだ。

もっとも、せっかく存在する機能であっても、実際に使われなければ意味はない。将来的に必要なかどうかは確定していない機能を、オプションとして後から追加するか、最初から準備しておくかは、価格などの他の要素とのトレードオフで考えたほうが良いだろう。

Check Point

③

導入費用を試算する

～運用規模と機能数がカギに～

さて、候補となる製品の機能について調べたところで、一番肝心な導入費用について試算してみよう。

各社が Web 上で公開している情報を元に、見積もったものが表 5 だ。まず、目を引くのが Groupmax Version 7 である。もともと、この製品はコラボレーション製品群やスイート製品として導入することが前提となっているので、今回のケースのような比較的規模の小さい企業での導入を考える際には、どうしてもハードルが高くなってしまふ。

サイボウズ Office 6 と desknet's V4.5 は、ほとんど同価格帯である。ただし、前述したとおり、desknet's では、ほとんどの機能がオプションを追加せずに使える点でやや有利と言える。

IT リテラシーのそれほど高くない企業における最初のグループウェア導入であるにも関わらず、将来的

にはできるだけさまざまな業務シーンへ活用範囲を広げていきたいという今回のシチュエーションを考えれば、ここは desknet's に食指が動く。

また、desknet's には機能を限定した「desknet's ライト版」も用意されており、今回のサンプルケースで必要だったスケジュール管理、設備予約といった機能はライト版でも十分にまかなえる。50 ユーザー以下での使用が前提だが、似たようなケースで、より小規模な企業には向いている。

導入費用で不利となってしまった Groupmax だが、スイートセット商品の「簡単導入セット」を使うといくら費用を抑えることができる。また、より大規模での展開を考慮するなら、スイート商品による広範なソリューションの提供力は大きな魅力だ。

表5●各製品の導入費用

メーカー名	サイボウズ	ネオジャパン	日立製作所
製品名	サイボウズ Office 6 基本セット	desknet's V4.5 スタンダード版	Groupmax Version 7
価格表(参考)	10ユーザー:8万3790円 100ユーザー:39万9000円 200ユーザー:76万4400円 無制限ユーザー:144万9000円	5ユーザー:4万1790円 10ユーザー:6万7515円 200ユーザー:73万2900円 無制限ユーザー:104万7900円	GroupMax Groupware Server: 12万6000円 GroupMax Groupware Web Client: 9450円 簡単導入セット(サーバ1+ クライアント11):17万6400円 Groupmax Collaboration (100ユーザーライセンス):207万円
サンプルケースでの価格	200ユーザー:76万4400円	200ユーザー:73万2900円	200ユーザー+1サーバ: 201万6000円※
今回の評価	○	◎	△
評価の理由	価格順にするとこうなる。Groupmaxは高機能な製品だが、今回のサンプルケースでは少し導入費用が掛かりすぎる。サイボウズ Office 6、desknet'sはほとんど差がないが、オプションの追加などを考えるとdesknet'sのほうが割安感はある。		

※「簡単導入セット+189ユーザー」の場合は196万2450円

総合結果

～重視する点にもよるが、僅差で「desknet's」をチョイス～

3製品について検討してみた結果、今回のケースでは「desknet's V4.5」が有利となった。すべての機能が最初から付いているので、2名という少人数での管理であっても、導入時の負担は最小限になると思われる。また、試用版でのテストのあと、ライセンスキーを購入するだけで実運用に移行できるというのも、今回のシチュエーションにはぴったりの機能だろう。

ただし、「サイボウズ Office 6」についても、見劣りする点はほとんどないだろうというのが実感だ。例えば、「直感的で分かりやすいユーザーインターフェイス」という点では極めて優れており、その部分を最も重視するのであれば、チョイスは変わるかもしれない。機能面も申し分なく、導入率の高さもうなずける製品である。

一方の「Groupmax Version 7」だが、こちらはサンプルケースの会社の規模、業務形態が合わなかっただけで、製品としては高いクオリティを持っている。複数の支社があったり、提携企業があるような場合、Groupmax の豊富なソリューション展開は必ず導入の候補に挙がるはずだろう。

今回のテーマは「Web 対応グループウェア」だったが、大企業に限らず、IT を活用した「情報の共有」は、もはやビジネスの常識である。グループウェアは、メールや Web といったツールを、ビジネスにより有効な形で生かすためのアプリケーションでもある。中小規模だからという理由で、まだグループウェアを導入していない企業があるとすれば、積極的に導入を検討してほしい。



表6 ●最終的な検討結果

メーカー名	サイボウズ	ネオジャパン	日立製作所
製品名	サイボウズ Office 6	desknet's V4.5	Groupmax Version 7
動作環境	○	◎	○
必要とされる機能	スケジュール	○	◎
	施設予約	○	◎
	トップページの親しみやすさ	◎	○
そのほかの機能とオプション	○	◎	○
導入費用	○	◎	△
特徴	操作性の高さでは群を抜く「サイボウズ Office 6」は導入後の顧客満足度94%を誇るグループウェアだ。Webサーバを事前に準備できていなくても、LAN環境さえあれば、独自の「簡単インストール」機能により、手軽に導入ができる。「使って楽しい、みんなに優しいグループウェアを徹底的に追求すべきだ」という開発コンセプトを持ち、ユーザーに優しい製品となっている。	「desknet's V4.5」は、全22機能が標準で搭載されている多機能な製品。使いやすさを徹底的に追求した画面は、機能の表示・非表示が自在に選択でき、分かりやすいアイコンでの情報表示が行われる。また、複数の画面はタブメニューですっきりと整理されている。アクセス権が設定できるのでセキュリティ対策も万全だ。最新版では、セキュリティ、検索機能、データ共有機能などが強化されている。	組織、個を超えたコミュニケーション機能を提供する日立的グループウェア製品の中核となる製品。シリーズのコラボレーション製品と組み合わせることでもさまざまな業種に対応できるのは大きなメリットだ。グループウェアの枠を超えた思想により、大規模企業において、先進的なコミュニケーションツールとして活用できる。

【おことわり】2005年11月号掲載の「ウイルス対策ソフト編」におきまして、サンプルケースのクライアント環境は「Windows 2000/XP」を想定しています。本文中での記述がなく、ご不便をおかけしたことをおわびいたします。